

伊集院保健所感染症情報

2023年第46週（令和5年11月13日～令和5年11月19日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippe@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症



伊集院保健所管内に

『A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 流行発生警報』

『インフルエンザ 流行発生注意報』を発令します！

定点医療機関【インフルエンザ5、小児科3、基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内				先週からの増減	県	
	開始	終息	基準値	第43週	第44週	第45週	第46週		第45週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	4.80	4.60	9.00	13.80	↗	18.48	↗
COVID-19	-	-	-	3.00	4.60	3.60	1.20	↘	1.75	↘
咽頭結膜熱	3	1	-	1.67	0.67	2.00	2.33	↗	3.08	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	3.00	2.67	2.67	8.67	↗	2.29	↗
感染性胃腸炎	20	12	-	0.00	0.00	0.00	1.67	↗	3.22	↘
水痘	2	1	1	0.67	0.00	0.67	0.33	↘	0.37	↗
手足口病	5	2	-	1.67	0.33	0.67	1.33	↗	1.69	↗
伝染性紅斑	2	1	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	→
突発性発しん	-	-	-	0.67	0.33	0.00	0.33	↗	0.41	↗
ヘルパンギーナ	6	2	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.08	↘
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.67	0.00	0.00	0.33	↗	0.08	↗
RSウイルス感染症	-	-	-	1.00	0.67	0.33	0.00	↘	0.06	↘
基幹定点からの届出状況			該当なし							
インフルエンザ入院サーベイランス			該当なし							
COVID-19入院サーベイランス			1（50代 男性）							
全数報告（かっこ内は本年の累積数）			該当なし							
※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし、注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし										

● TOPIC 流行発生注意報・警報の発令について

定点あたりの報告数が各疾患の注意報基準値・警報基準値を超えた場合発令するものです。今回のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行発生警報は、『大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われる』ことを示しています。また、インフルエンザ流行注意報発令は、「今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことが疑われる」ことを意味します。インフルエンザは、学級閉鎖も報告されています。今後の動向に注意し、感染対策を徹底しましょう。

11月16日～12月15日は、『鹿児島レッドリボン月間』です。

伊集院保健所では、12月1日（金）午後5時～7時にHIV夜間検査を実施します。

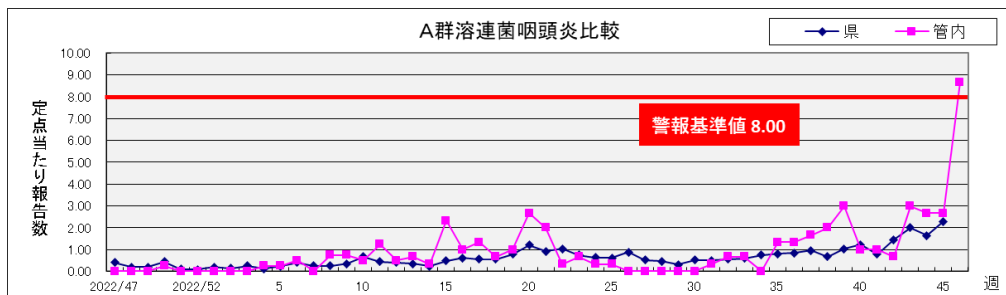
11月24日（金）までに電話で予約が必要です。詳しくは、お電話（匿名で可）でご相談ください。



● 注意すべき感染症

● A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（警報発令！）

今週の伊集院保健所管内におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、前週の8人（定点当たり2.67）から18人多い26人(8.67)



に増加し、警報基準地の8.00を超えました。年齢別では、7歳（6人）、2歳（5人）、4歳・6歳・9歳（各3人）の順に多い報告でした。

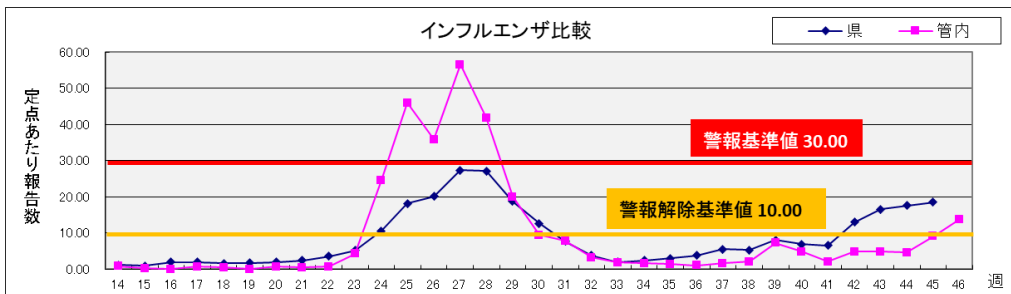
感染すると、2～5日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛まつ感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

予防には、患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

● インフルエンザ（注意報発令！）

今週の伊集院保健所管内におけるインフルエンザの報告数は、前週の45人(定点当たり9.00)より24人多い69人(定点当たり13.80)で



した。年齢別では、10～14歳（30人）、9歳（9人）、15～19歳（5人）の順に多い報告でした。

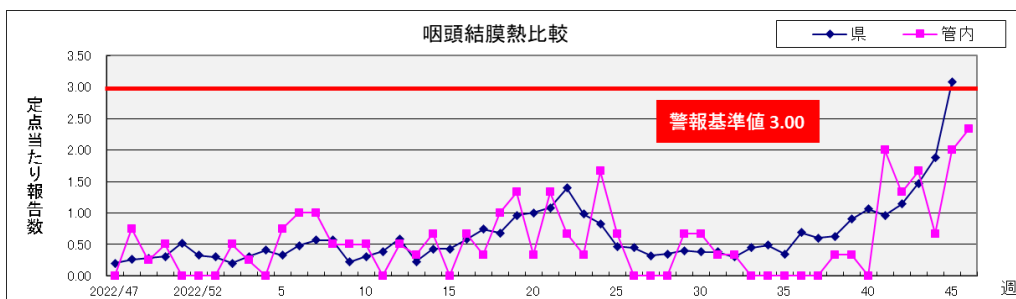
小児ではまれに急性脳症を、御高齢の方や免疫力の低下している方では二次性の肺炎を伴うなど重症になることがあり、それぞれ注意が必要です。

★インフルエンザ罹患後の登校基準：発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過してから（学校保健安全法）。

学級閉鎖が1件ありました

● 咽頭結膜熱

今週の伊集院保健所管内における咽頭結膜熱の報告数は、前週の6人（定点当たり2.00）から1人多い7人(2.33)に増加しました。



年齢別では、1歳（3人）、2歳（2人）、3歳・6歳（各1人）でした。

咽頭結膜熱は、プール熱とも呼ばれ、発熱、のどの痛み、結膜炎が3～5日続く病気です。

例年は6月ごろから徐々に増加しはじめ7～8月にピークとなりますが、国立感染症研究所感染症週報43週報によると、今年の全国の報告数は過去5年間の同時期と比較してかなり多い報告となっています。

感染症予防のポイント

○患者との密接な接触を避けましょう。（タオル等は別々に！）

○泡立てた石けんと流水での手洗い、マスクを用いた咳エチケットを心がけましょう。

○小児の集団生活では感染が拡大しやすいことから、体調不良者は出勤・登園等を控えましょう。

○吐きけ、強い頭痛、咽頭痛、せきが激しいときなど、早めに医療機関に相談しましょう。